

市民参画に係わる市民座談会（第24回）《要旨》

平成25年6月13日（木）午後7時から午後9時まで

コミュニティーセンター 第2集会室

参加者 10人

【市民】岩垣、大野、坂本、佐野、藤井、山本

【職員】政策企画室 又賀、芦原、山崎 地域づくり支援課 木内

座談会における内容は以下のとおり

1 市民への声かけに関するフォーマットの作成

- ・フォーマットのうち「対象者」を年齢別に区分するのではなく、職種、生活スタイル、ゾーン（地域）に分けて整理したほうが良い。
- ・フォーマットのうち「手段」については、情報が市民と行政の双方向なのか、行政からの一方通行なのかが分かるようにすると良い。
- ・世代別投票率を見たら、市政への関心の度合いが分かるかも知れない。
- ・「対象者」については、どのような人を呼び込みたいのかを具体的に議論する必要がある。
- ・市民は、何かきっかけを持つと興味が湧いてくるので、その仕掛けをつくることが大事である。そのための、より有効な情報発信の方法を考える必要がある。
- ・市民は情報が少ない。市は、どんどん情報を発信しないとイケない。そのためのツールとして、モバイルは有効なもののひとつである。
- ・市民に呼びかけるなら、「朝霞をどのようなまちにしたいのか？」という問いかけ方が有効である。

2 分野ごとのワーキンググループについて

- ・理想は、分野（施策）ごとに市民主体で運営するワーキンググループのようなものを常設で設置することである。
- ・このワーキンググループが主体となり、定期的に担当課と市民座談会のような場で普段から情報交換をしたら良いと思う。
- ・計画策定の際にもワーキンググループと行政とが協働でたたき台を作り、それを審議会等で審議する仕組みができないか。
- ・このようなワーキンググループの活動が定着したら、朝霞独自の市民参画が出来上がるのかも知れない。
- ・ワーキンググループについては、「朝霞の森」の良い例があるため、その手法を他の分野にも広げられないか検討する余地はあると思う。
- ・ワーキンググループの中心となるキーマンを、その分野で活動している団体に直接話をしに行き趣旨を理解していただき、この会に参加してもらってはどうか。

3 次回の座談会について

- ・平成25年7月11日（木）午後7時から
- ・場所はコミュニティーセンター 第1集会室。